



＊第29回＊

# 水谷由希子

NTTデータ

## 変化をたのしみ 小さな成果を積み重ねて

### まえがき

素敵な機会をいただきました。理系の女子学生を中心とした幅広い読者を想定して、自分の経歴を振り返る。理系の女子学生だった自分だったら、今の自分にどんな質問をするだろう？ そんな想像をしながら執筆させていただきました。

### リケジョの素養

幼い頃、ひらがなよりも数字に興味を示した私を、母は早くも理系と判断していたようですが、私自身、自分が理系なんだと自覚するようになったのは、高校生のときでした。数学を楽しく教えてくれた、学校の先生の影響もあったと思います。それこそ、先生は女性でした。女性で理系ということに特別な感覚を持つことなく、3年生になるときに理系クラスを選択し、理系の大学を受験しました。

大学案内等を見て、理系では女性がマイノリティなのだということは、数字で理解していましたが、いざ入学して、大きな教室にいる学生たちが、ほぼ男子であることを目の当たりにして、ようやくその数字の意味を実感したのでした。でも母体が多く、同じ学科に10数人の女子がいたので、気の合う友達もすぐにできました。お昼休

↑株式会社NTTデータ 第二金融事業本部 第二バンキング事業部

"Change Happily, Enjoy Piling Up of Small Results" by Yukiko Mizutani (Second Banking Division, Second Financial Sector, NTT DATA Corporation, Tokyo)

みだけでなく、空き時間に食堂でテーブルをつなげて、みんなで実験の事前レポートに取組んだり、マイノリティ故に目立っていたかもしれません。

さばさばしている、というのもリケジョの特徴の一つだと思います。卒業旅行のハワイでは、昼間それぞれ自分のやりたいことをやって、ディナーで待ち合わせ、という、ある意味ドライな過ごし方も。それでも、卒業から15年経とうとしている今も、時々集まっています。心地よい距離感で、彼女たちの近況に刺激をもらっています。

### 進学・就職

大学では、情報工学科を専攻しました。学士論文執筆のため所属したのは、映像・画像処理の研究をしている研究室。画像符号化・画像検索・画質評価・物体抽出の各観点のアプローチがあり、私は静止画の物体抽出について、その精度を高めるアルゴリズムについて研究しました。研究室では紅一点でしたが、先生も先輩も同期のメンバも、皆さん私を研究仲間として認めてくださり、心細いことなど微塵もなく、ともに研究に励むことができました。自分の研究結果を、先輩が動画に活用してくれたり、さらにそれが符号化に活用されたり、符号化の各手法がテレビ放送の技術に欠かせないのだと知ったり、研究室としての成果の一部に携わっていることを実感できるのが楽しい毎日でした。

8割以上の学生が大学院への進学を



移行プロジェクトで、オフショア開発のため大連に出張したときの写真です。

する大学でしたが、研究を続けること以上に、世の中での技術の活用へ興味が向き、学部で卒業して就職することを選びました。就職先については、情報工学科で学んだことを活かしたいという気持ちもありましたが、世の中で動くシステムの開発に興味があり、それが就職の動機だったので、自然とシステム業界に絞られていきました。

入社して所属したプロジェクトは、大規模金融システムでした。すでにサービスを開始して、機能の追加開発、運用をしながら都道府県単位にシステム移行を行っているプロジェクトで、私はシステムに設定する情報を管理するチームに所属しました。

① お客様から設定したい情報を受け取って、② 実際にシステム上に設定するデータを作成して、③ 他のデータとの整合性をチェックしたり、④ 整合性をとった新たなデータを生成して、⑤ 最終的にシステムに登録する。

一連の流れを作業として回す「運用」と、チェックやデータ生成の機能の「開発」、仕事は大きく二つの役割に分



けて実施していました。データ生成処理にバグがあれば、手作業でデータを修正し、作業ミスで誤ったデータを登録してしまったら、チェックを強化したり、自動生成して再発防止する。利害関係も持ちつつ、それぞれが補い合う関係にあり、うまくバランスをとってやっていくことに、面白さを感じるようになっていきました。

### 結婚・異動・出産

入社以来、長いこと同じプロジェクトで、しかも同じ機能の開発と運用を担当しつづけて、目の前の仕事をほとんど反射神経だけで片付けられるようになっていた頃、結婚を機に仕事にも変化が欲しい！と、自ら希望して新しく始まるプロジェクトへ異動しました。異動先はまた別の大規模金融システムだったのですが、その移行プロジェクトのマネジメントをする立場への異動でした。

念願の、プロジェクトの初期から取組むというチャンスに恵まれたのです。

自分で希望した異動だったので、絶対に最後までプロジェクトをやり遂げたいという気持ちで取り組みましたが、それが空回りしてしまった側面もあったかもしれません。また、長いこと一つの組織に所属していたので、新しく入って行った組織の文化や習慣に、なかなか受け入れられなかった面もあったかもしれません。気づいたことを提言してみたけれど、うまく伝えることができなくて反発を買ってしまったたり、リーダーの振る舞いとして期待されたことと自分が実現しようとしたことがずれていたり、マネジメントと併せて大事な仕事である報告の場では、毎日のように怒られて、我慢するのが仕事なんだと自分に言い聞かせる時期もあったり。異動前、ぬくぬく過ごしていた分、とても苦労しました。

でも、以前は部分的に関わっていた移行について、段取りやお客様とのやりとりの全体像が見えるようになり、困難な状況で進捗管理、課題管理を真面目に泥臭くやる、という経

験が、プロジェクトマネージャとしての成長の糧になったのは間違いありません。なんとか無事に移行し、最後はお客様に「水谷さんのおかげで頑張れました！」と言ってもらえたことが集大成であったと感じています。

この移行プロジェクトの完了報告等の諸手続きを終えた直後に、子どもを授かっていることがわかりました。妊婦の半年間、携わったのは次の移行プロジェクトの立ち上げです。前回の経験も活かして、進め方を決め、コミュニケーションを確立していくのですが、お客様が変われば同じ移行でも求められる対応や期待されることの優先度も変わります。大きなおなかでしたが、テレワークも適宜利用させてもらいながら、お客様の元にもこまめに足を運んで基本設計工程まで、参加しました。そして、産休・育休を合わせて1年1ヵ月、取得させていただきました。

### 復職、そしてこれから

復職にあたり、助走期間を最短にしたいと考えていた私は、（保育園への入りやすさも考慮して）思い切ってフルタイムで復職しました。また、休暇前の職務での復職を希望しましたが、上司が、育児とキャリアの両方に配慮して、プロジェクトにとっても必要とされている役割を検討してくださった結果、休暇前に所属していたプロジェクトで事業計画に携わることになりました。プロジェクトのコストや投資回収を見ることになり、結果的に、とても良い経験をさせてもらっていると感じています。今後は、また開発の現場にも入って行くことを考えており、最近はそのリハビリを兼ねて、移行の試験イベントなどにも参加させてもらうようにしています。

仕事と育児・家事、両方をこなすのは、思っていた通り大変で日々奮闘ですが、復職してみて初めて実感したのが、両方あるから精神衛生上いいこともある、ということです。子どものいる生活では、時間生産性の重要さを切実に感じます。以前も効率的な作業を



私のリフレッシュの一つはランニングです。毎回、社内駅伝に同期チームで出場しています。200チームくらい出場し、いつも8位～15位くらいの好成績！

心がけていたつもりですが、作業が終わらなければ当初の予定時刻をオーバーして終わらせるようなことはよくありました。しかし今は「あと5分の残業」が無理ですから、もう必死です。効率のために仕事も育児も家事も、段取りを真剣に考えるようになり、その段取りで事を進めるためには、「今やること」以外のことで悶々としている暇はありません。必然的に切替えができる。これ、なかなか便利です。仕事も育児も家事も、一つ一つの段取りをこなしていく、小さな達成感の積み重ねが楽しい毎日です。

### むすび

振り返ってみると、就職して以降、自分がリケジョであることを意識するようなことは、あまりなかったかもしれません。でも現在の仕事に至るのは、リケジョゆえの選択の結果ですし、きっと考え方や仕事のやり方の中に、リケジョ要素がちりばめられているでしょう。今思うのは、周囲のひとたちに恵まれてきたな、ということと、一生懸命やって楽しいな、ということ。出会ってきた人達から学んだことがたくさんありますし、直接的にも間接的にも、いろいろなサポートを受け、ありがたく感じています。研究も、仕事も、育児・家事も、一生懸命やっていることは、小さくても確実に何かの成果につながっています。それは、嬉しくて楽しいこと。そしてそれが、輝くということなのかな、と私は思います。

キラキラしましょう。いつまでも！

(2016年4月6日受付)